

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700234		
法人名	有限会社 三河接骨院		
事業所名	グループホーム やわら余山町		
所在地	千葉県銚子市余山町193		
自己評価作成日	令和 5年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和5年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所の理念として「なじみの町で共に生きる」を掲げている。 ・家族と利用者との絆を尊重している。 ・その方の今まで生きてきた「道のり」を大切にしている。 ・利用者様と職員が生活を共にしているので、お互いに尊重できる関係を作りたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍中の令和3年3月設立の1ユニットのホームで、小規模多機能が併設されている。この間ホームでもクラスターが発生し、職員の懸命な支援により乗り切って、現在に至っている。今年4月にホームと小規模多機能の管理者が交代(入れ替わった)したが、両施設は調理や運営推進会議の合同開催など、一体運営されているので、スムーズに引き継ぎが完了した。家族アンケートも昨年同様概ね満足度は高い。介護度の高い利用者も増え始め、職員の負荷も増大してきたが若手の管理者とケアマネジャーが中心となり、2名の外国人職員も含め、全職員が連携して利用者支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「なじみの町で共に生きる」の理念のもと、利用者様が自分らしく生活を送ることができるよう職員は日々支援している。	理念は法人代表(施設長)が大書して、誰の目にもわかるようにフロアに掲示している。外国人職員もいるので、会議等で具体的な話をしながら内容と、その理念に基づく実践について説明している。	
2	(2)	グループホーム やわら余山町 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は施設外周を散歩したり日光浴等を通じて、近隣の住民と挨拶や声掛けを交わしている。	近隣の住宅地は高齢者が多く、コロナ禍での開設でもあり、地域住民との交流もなく、地域の行事も再開されていない。町内会には加入している。運営推進会議に市議会議員や前町内会会長も参加頂くので、地域の情報を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベント等があれば、参加可能な利用者様と参加したり、施設にも近隣の保育園児達や紙芝居等と呼び交流を実践できるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナも落ち着いてきた為、6月(第13回)の運営推進委員会より有識者様に集まって頂き、施設内で開催している。	6月以前はホーム関係者のみで、以降は外部の方も含め面談方式で年間6回小規模多機能と合同開催している。包括支援センター、にこプラン(居宅介護)、市議会議員、前町内会会長、家族、ホーム・小規模の関係者が参加し、利用者状況や行事やホーム課題について説明し、アドバイスを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進委員会を行い、やわら余山町の状況や有識者様と話し合った内容を書面にして市に報告している。不明な点は市の高齢者福祉課に相談している。	相談事項があれば、都度、市の高齢者福祉課を訪問して打ち合わせするなど連携を深めている。運営推進会議の議事録は開催時毎に高齢者福祉課へ提出している。今年度は市の指導監査も受け、終了した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会、内部研修を定期的に開催している。適切なマニュアルを活用し、全職員が理解を深めている。	毎月の会議や、朝・夜のミーティングの場で話し合い、研修内容を全員で確認してるが、対象事例はない。小規模との合同研修会で年4回研修し、運営推進会議開催時に、身体拘束廃止適正化委員会を併せて開催している。特に外国人職員の言葉遣いや声量(声の大きさやトーン)等も指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者は虐待防止に徹底した理念を掲げて職員を指導している。定期的に施設内研修も行い実践につなげている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修やミーティングを通して管理者、職員共に理解を深め支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約を行う際は、御家族が不安に思っている事や疑問点を伺い十分な説明を行うように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。また家族来訪時、電話連絡、運営推進委員会にて意見、要望を伺い運営に反映させている。	家族とは来訪時や電話で話し合っていたが、多くの家族からの希望もあり、LINEを活用し、情報交換している。その他、隔月のやわら活動報告(写真入り)、運営推進議事録なども送付して、ホームの概況及び利用者の状況を知らせている。	来訪が少ない家族が多く、アンケートでは「介護計画について話し合っていない」、外出支援については「わからない」の回答が多い。来訪の少ない家族とのコミュニケーションの取り方につき検討したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をいつでも聞ける体制をとっている。日々の申し送りや月1回の職員ミーティングで意見交換を行い運営に反映させている。	何でも話し合えるホームの雰囲気作りに努めている。毎月の会議(ミーティング)や、朝・夜のミーティング以外に、管理者から積極的に話しかけて、コミュニケーションを深めている。職員からの改善提案を支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見に常に耳を傾け、職場環境、条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護に対する意欲の持続の為、職員間で話し合う場を設けている。またスキルアップのために法人外の研修機会を見つけ職員の働きながらのトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナも落ち着いてきたが、外部との積極的な交流はまだ図れていない。同法人での勉強会や情報共有を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に声掛けを行い、意見に耳を傾け会話の中で本人の不安解消及び信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望、不安なこと、困っていることに耳を傾け、御家族の不安等が軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報や相談時の内容から本人や家族が必要としているサービスを見極め、本人やご家族様にふさわしい介護サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の行動や言動から声にならない要望を受け止め、日々の介護に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるには家族の協力の重要性を理解して頂き、絆の結びつきを断ち切らない環境を作るよう努力している。電話や来訪時に家族に説明し、本人を共に支える努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族をはじめ親戚、ご本人が気軽に面会、電話連絡等ができ、ご本人との関係継続につながるようなことができるよう支援に努めている。またコロナも緩和してきているため面会規制を緩和し条件下の元、短時間面会を実施している。	家族との関係を継続させるために、家族の希望の多かったLINEを活用し、利用者の写真を送り状況を報告している。LINE電話で家族と話をした利用者もいた。家族や親戚との面会も玄関で短時間2名までと緩和するなどして支援しているが、ホームを自宅と言う利用者も増えてきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に全体の状態や状況を把握して、一人一人が孤立しないように声掛け、気遣いに努めている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も今までの関係性を大切にし、気軽に相談に応じる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の情報提供や相談時の内容から本人像を理解、把握に努めている。また日々ご本人と接する中での会話や行動から一人ひとりの思いや希望に添えるように努めている。	入所直後の利用者は突然の環境の変化に不安になることが多い。不安や寂しさを感じないように、居室のドアを開け、日中はホールで過ごし、声掛けや話を聞くなど利用者に合わせた対応を心掛けている。家族から入所前の利用者の様子を聞き、しぐさや会話から思いや希望を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供から本人像を理解、把握に努めている。また本人、ご家族からも聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様と日々接する中で一人ひとりの状態把握に努めている。また職員間での状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れ介護計画書を作成している。また申し送りやミーティングで出した意見も参考にしながら見直しを行っている。	入居に際し、本人や家族の意向にそった介護計画書を作成している。入居後は、職員から日常の様子を聞き取り、個々に合わせた介護計画書を作成する。介護計画と日常の支援とが連動しているかをミーティング等で職員と意見交換を行い、介護計画の見直しに活かすなど、利用者にあわせた具体的支援を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人の言動、表情などを個別に記録している。またバイタル、食事量、水分摂取量、排泄状況を記録して職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、御家族の要望やその時々状況に応じた柔軟な支援の実践に努めている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが心身の安定につながる生活ができるように地域資源の把握活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様が希望している医療機関を受診している。受診の際はご家族に依頼したり、事情に応じて施設看護職員または介護職員が付き添い受診している。	ホームの協力医(かかりつけ医)の月2回の訪問診療があるが、中には在宅時からのかかりつけ医を継続される方もいる。専門医や歯科の受診は原則家族が付き添うが、家族からの依頼や緊急時は看護職員、介護職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の状態変化や気づいたことがあればその都度、看護職員に報告相談し、早期発見、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送、緊急受診の際は、看護職員または介護職員、家族が同行し今後ホームでの生活する上での注意事項などの説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では現状の実績はない。	入居時に看取りは実施していないことを説明し、了承を得ている。予測できる状態変化に対応できるよう、ホームの看護師中心に対応の流れを一覧にしている。急変に備え夜勤勤務者にも対応方法を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成している。研修会やミーティングで定期的に確認、訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している小規模と合同で年2回、避難訓練を実施している。今年10月に防災設備会社立ち合いの元、避難訓練と水消火器を使用して消火訓練を実施した。	地震、火事、津波を想定し、年2回避難訓練を実施。運営推進会議での発言で、自力歩行が困難な場合の避難方法について、消防署立ち合いの避難介助の実技訓練を実施した。備蓄品は3日分を保管している。銚子市ハザードマップを定期的に確認される事をおすすめしたい。	

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修やミーティングで接遇について学び、利用者の誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	苗字か名前で呼ぶかは利用者の様子から判断し、必ずさん付で呼んでいる。職員は利用者を一人の人間として大切に思い対応するよう心掛けている。職員は声の大きさや話し方に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりとコミュニケーションを十分にとることを心掛けている。日々の会話や傾聴の中から本人の思いや希望を汲み取り、本人主体の生活を送ることができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムに合わせた支援に心掛けている。日々の生活の中で希望、要望等を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好むものや着たい服があればご家族の協力も得ながら用意している。季節の変化に応じて家族に連絡して用意して頂く。定期的に理容師に来ていただき身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じた食事の提供に心掛けている。食欲がない時などは家族の協力を得るなどして本人の好むものをたべていただけるよう支援している。	調理員が献立をたて、普通食、きざみ食、ミキサー食を提供している。食事がとれない時は家族の了承を得て、好きな物を出す場合もある。誕生日は誕生日メニュー、正月はおせちをイメージしたメニューで季節を感じてもらいたいと行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分摂取量を把握し、記録している。摂取量が少ない時は、その時の本人の状態に合わせて栄養、水分確保ができる支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯の洗浄を行っている。食事前には口腔体操を行い誤嚥予防にも努めている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録している。個々の能力に合わせた排泄支援を行っている。なるべくトイレで排泄することができるように支援している。	水分は摂取量を水分量ファイルに記入し、1日1500ml～2000mlの摂取を目安にしている。職員は排泄表で、利用者の排泄パターンを管理している。トイレへの促しは、水分摂取量や排泄表を参考に個別に行い、利用者が排泄を負担に感じないよう留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分摂取量を記録し、摂取量には注意をしている。また、毎日牛乳を飲んでいただくことで便秘予防に努めている。日々の生活の中で個々に合った運動を取り入れることに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、一人週3回実施している。本人のペースに合わせてゆっくりと入浴して頂けるように心掛けている。体調不良により出来ないときは、入浴日を変更したり、清拭や衣類交換を行い清潔保持に努めている。	男女交代で週3回の入浴。脱衣室に室温・湯温や入浴時注意点を掲示し安全に配慮している。浴槽内は5分でアラームが鳴り、利用者にわかるように工夫している。入浴を拒否する場合は、時間や介助者を替えたり、翌日にするなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの生活習慣に合わせた対応を心掛け、自室に安心して休息を摂れるよう支援している。また、消灯時間や起床時間にこだわらず利用者様の生活リズムで就寝、起床して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は看護師が管理している。配薬、内服時には職員2名で確認し、氏名、日付、朝、昼、夕、就寝前と読み上げて誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で張り合いのある時間を過ごして頂けるように、レクリエーションや行事等で楽しんで頂ける企画を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも緩和されてきたので、天気の良い日は施設周辺を散歩したり日光浴をしたりして外の空気に触れて気分転換できるように支援している。	5類移行は外出希望の利用者には、職員が付き添い、近隣の散歩に出かけることもある。しかし、1人歩行が困難な方が増え、職員のマンパワー不足も重なり、支援に取組めなかった。今後は、車で神社に初詣に行きたいと思っている。それぞれの利用者の体調に合わせた外出支援を考えている。	家族アンケートでは「ほとんど出かけない」「わからない」の声が多く、コメントも外出や散歩での支援を希望する声もある。利用者の介護状態を考慮した外出支援(外気浴や散歩も含む)も増やしていただきたい。併せて外出支援の状況を家族へ知らせる事も重要と思われる。

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの管理能力が異なり、トラブルを回避する為にも職員が預かり、必要時には職員が一緒に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話を掛けたいと訴えがあった場合は時間を配慮して応じている。家族から手紙が届いた場合もお礼を兼ねて、気軽に電話連絡できる体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の空間は生活感、季節感を取り入れて居心地よく過ごせる工夫をしている。ホールは明るく開放感があり、ゆったりと過ごせる空間作りになっている。また、トイレ等の共用空間は清掃、消毒をこまめに行い清潔に努めている。またホールには季節に応じた飾りつけを行っている。	ホールや廊下の壁面には職員と利用者で作った四季の花の折り紙や誕生会の写真を飾っている。利用者は陽が差し込む明るく清潔なホールで日中過ごすことが多い。日中はカラオケ、ぬりえなど好きな事を楽しむ。洗濯物を干す等の手伝いがやりがいにっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で気の合う利用者様同士が自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や家族からの贈り物等を飾り、安心して居心地よく過ごしていただけるように工夫している。	新しい環境に馴染めるように、自宅で使用していた布団や茶碗、湯呑み、箸を持参してもらっている。家族や孫の写真を飾る方もいる。ホームの誕生会でプレゼントした色紙を額に入れて置いている方もいる。居心地のいい空間づくりを家族、職員で協力して作るように心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、車椅子専用トイレが設置されている。利用者個々の「できること」「わかること」を考慮し、本人が能動的にかかわれるように工夫している。		